

FD経験交流会

# 教職大学院における 〈協働の学び〉と〈教育現場との連携〉

実務家教員による授業紹介

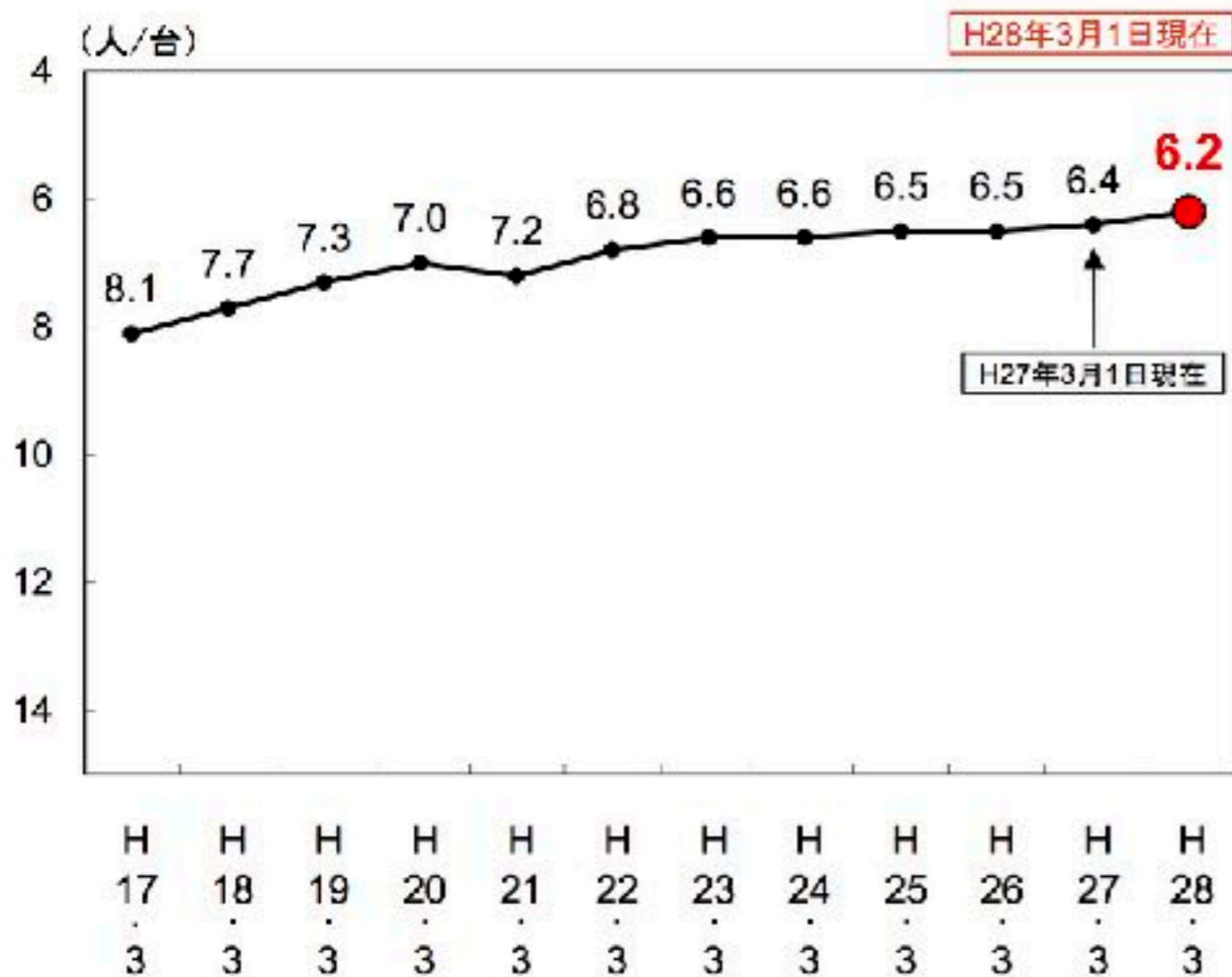
熊本大学教職大学院 前田康裕

# ICT教育実践論の授業紹介

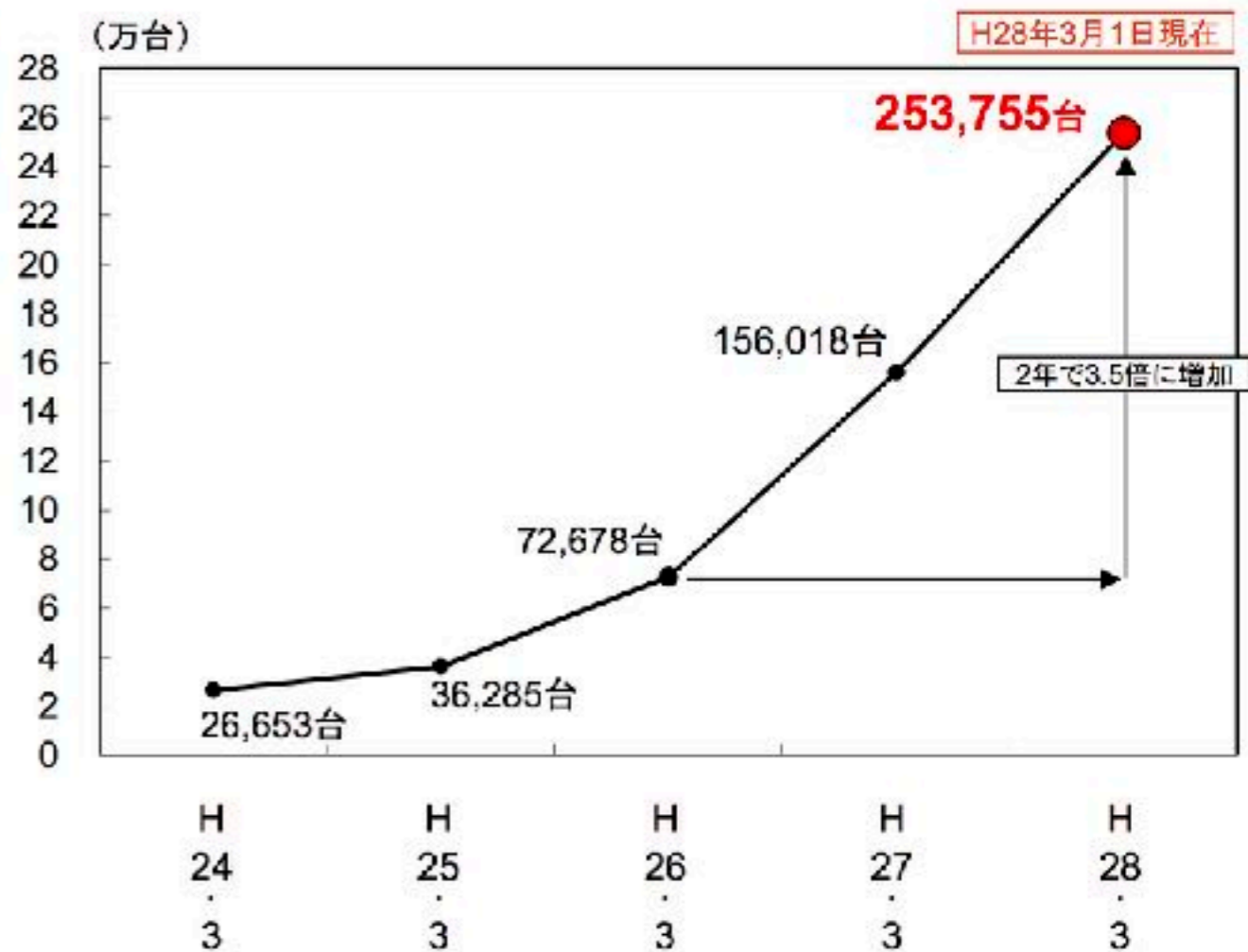


# 1. 学校における主なICT環境の整備状況の推移

## ①教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数



## (参考)教育用コンピュータのうちタブレット型コンピュータ台数



前年度を上回る台数の増加、2年で**3.5倍**

## タブレット型端末を活用した協働学習

### 授業の到達目標及びテーマ

情報機器と電子教材を利用した授業設計を行い、実際に実行することができる。  
このような授業で利用する電子教材を作成することができる。  
協働学習の経験によって、学習者としての知見を共有することができる。

	回	内容
1	1～3回	情報機器の基本操作とプレゼンテーションの基本（協働学習） 「こんな教職大学院にしよう～魅力的な大学院にするための提案～」
2	4～6回	動画編集によるコマーシャルビデオの制作（協働学習） 「仲間の魅力を伝え合おう」
3	7～8回	ICTを用いた授業設計（レクチャー） 「実際の授業での活用場面と実践知の共有」
4	9回～15回	プレゼンテーションの応用（協働学習） 「教職大学院の良さを伝えよう～スライドと動画を組み合わせて～」

# 全時間 ティーム・ティーチング



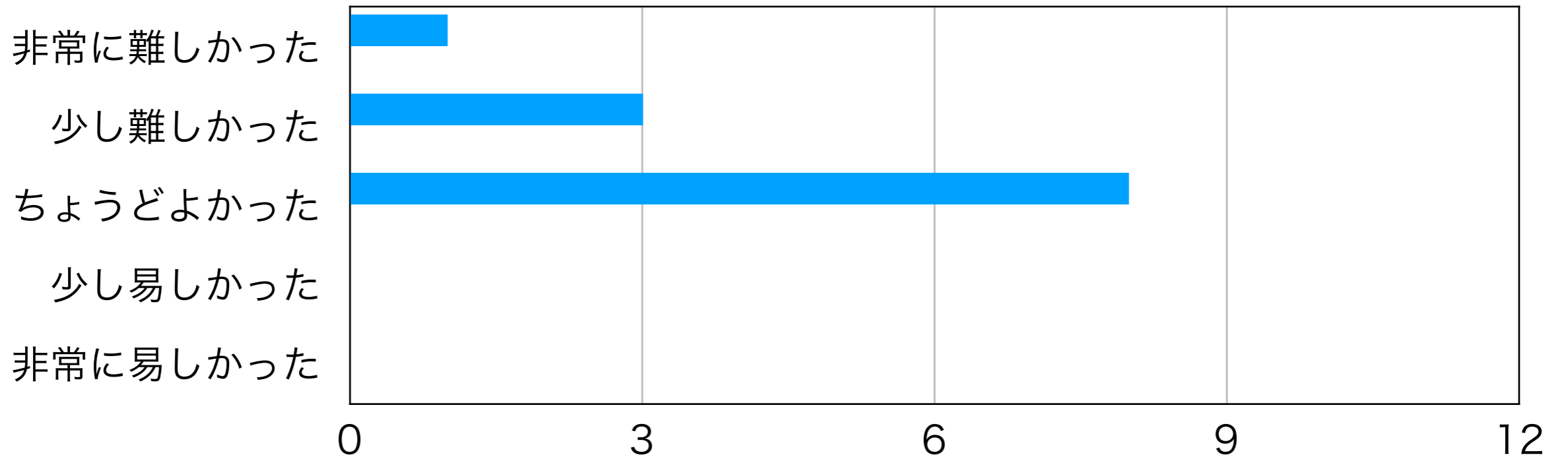
**研究者教員と実務家教員によるチームティーチング**

## プレゼンテーションの応用（協働学習）

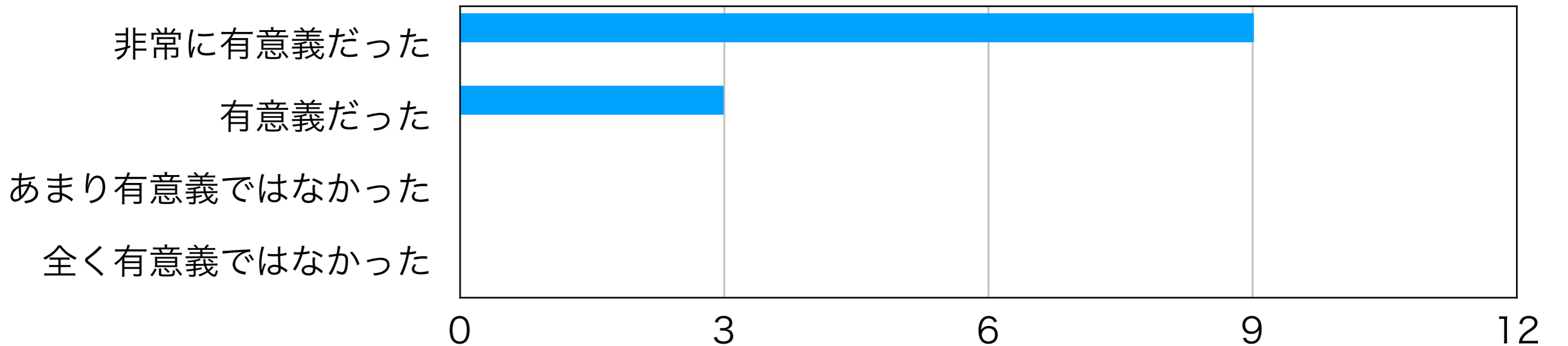
協働学習プロセス、ルーブリック、パフォーマンス評価等を経験する

# 学生からの授業評価

授業の難易度は、どうでしたか。(n=12)



全体として、この授業はどの程度有意義でしたか。(n=12)



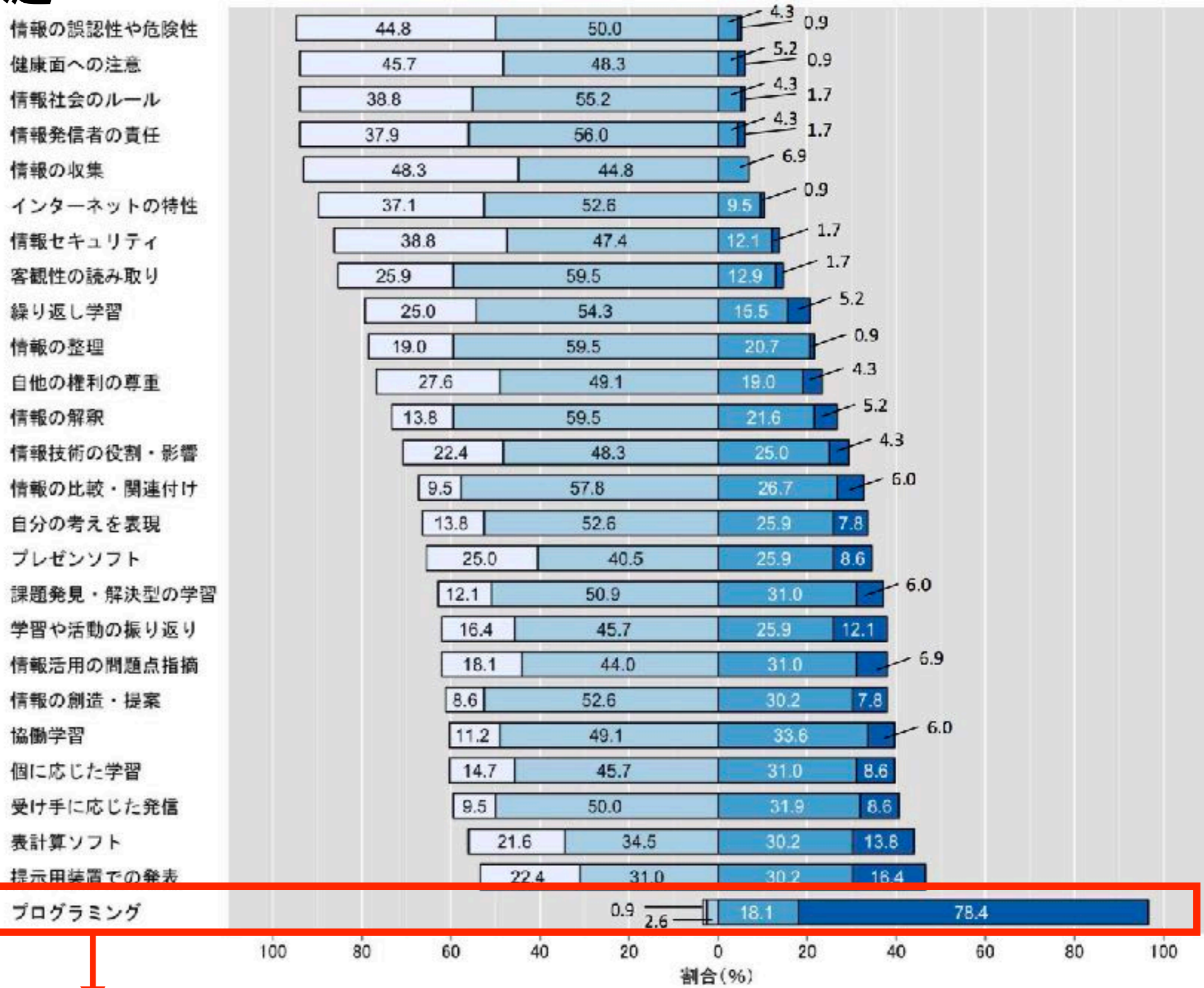


## 授業改善のための意見（この授業で良かった点、改善してほしい点について）

- ICTを用いた教育というテーマのもと、一方向の講義にとどまらず、学習者がタブレット等を活用できたことが学びにつながった。授業者の先生方がタブレット端末や課題制作用にマイク等の機器を準備して下さり環境がとても整っていた。
- 5月から6月にかけて、他の授業もグループ活動が多く、なかなかチームで集まる時間が取れなかった。そんな中でプレゼン制作などを行うので、間に講義を挟むなどして制作の期間に余裕を持たせてほしい。
- 参考になることが多く、学びが深かった。

# 次年度への課題

図表1-25a 情報活用能力育成に関する指導力の自己評価(教師用質問紙・小学校)



プログラミング教育への対応